



# Plan Do See

## 「手紙が書けない？」

あさひ野小学校 校長 佐竹 隆太

先日、手紙を書く機会がありました。久々に自筆で手紙を書くということで、妙な緊張感と不安に襲われました。書き始めると、その不安は見事に的中。なんと漢字が書けないのです。慌ててワープロを立ち上げて、漢字を確かめながら書き進めるという状況に陥ってしまいました。しかも、難しい漢字を書くと、自分で書いた漢字が正しいかどうかを目を凝らして確認する始末。いかに漢字を忘れつつあるかを痛感してしまいました。



老化でしょうか。確かに50才を過ぎた頃からはもの忘れが増え、やるべき仕事を忘れないように、付箋にメモしてパソコンに貼っておくことが当たり前になってきました。老化という階段を一段一段上っている気がして仕方ありません。しかし、漢字が書けなくなっているのは、老化だけが原因とは思えません。辞書も使わずワープロに頼りきって、自分の手で書くということを怠ってきたせいもあるでしょう。

「近い将来、コンピュータやロボットの発達により、人間がやる仕事がどんどん減っていく。人間が担うのは創造的な仕事に絞られていくであろう」という話をよく聞きます。「だから、子供たちには、漢字が書けなくても計算ができなくても、新しく創造していく力を身に付けさせていく必要がある」と。確かにそういう力は必要です。新学習指導要領にある「知識をどう使うか」というのも、この部分に当たるのでしょうか。しかし、コンピュータやロボットを使うのは、やはり人間。概算ができなくて、数字の入力ミスに気付かなかったり、ワープロに頼りきって、漢字の変換ミスに気付かないようでは困るはずです。時折、基礎的・基本的学習内容を軽視するかのような論調がみられるのは、気にかかることです。

朝日町は、教育用コンピュータやタブレット等、教育機器、情報機器が大変充実している町です。デジタル教科書対応のプロジェクターも整備されたおかげで、デジタル教科書を使った授業もよく見られるようになってきました。その授業では、子供の視覚や聴覚に訴え、効率的、効果的に授業が進んでいきます。本当に素晴らしいです。この充実した教育環境を十分生かさなければならないと思います。ただ、こうしたデジタルな学習が進めば進むほど、本を「読む」、自分の手で「書く」「計算する」といったアナログな学習の大切さを忘れないようにしたいものだと思います。と言いながら、今、この文章もワープロに頼りきって書いているのですが。

## ともにがんばりましょう～今年度朝日町の学校に赴任されたみなさん

### 「先生になろうと思ったきっかけ」

朝日中学校 廣川 平

今年度、魚津市立東部中学校より異動してきました廣川平といいます。教科は技術・家庭科、部活動は女子バレーボール部を担当します。朝日町生まれです。どうぞよろしくお願いします。

私が先生になろうと思ったきっかけは、2人の先生の影響が大きいです。

1人目は、高校教師をしていた父親の影響です。小さい頃から、父親が生徒と向き合う姿や、厳しい中にも温かさがある指導を見てきました。また、朝早くから夜遅くまで仕事をし、とても大変そうでしたが、お正月には卒業生が自宅に遊びにきたりすることもあり、大変だけど、やりがいのある仕事だと思いました。そして、その姿にあこがれ、先生を目指しました。

2人目の先生は、富山市で講師をしていた際、出会った校長先生の影響です。教員採用試験になかなか合格できず、講師をしていた時、その校長先生は、私の話をじっくり聞いてくださり、自分で気付いていない長所を引き出してくださいました。そのおかげで、自分の考えを深めたり、新しいことに気付いたりすることができました。この経験がきっかけで、先生になりたいという思いがさらに強くなりました。

現在は、2学年主任として、77名の担任というつもりで頑張っています。また、初めて家庭科も担当しており、生徒に助けられながら毎日を過ごしています。自分の母校でもある朝日中学校に少しでも貢献できるよう、これからも頑張ります。どうぞよろしくお願いします。



### 「微分・積分」から「正負の数」へ

朝日中学校 田又 繁幸

3年間の高校勤務を経て、再度、朝日中学校に戻り、忙しくも充実した毎日を送っています。ついこの間まで数学Ⅲ「微分・積分」を教えていたのが、この4月からは中学1年の数学「正負の数」を教えるところからスタートしました。高校では、数学を苦手とし、単位修得に苦しんでいる生徒を何人も見てきて、改めて、数学の初期段階を教えることの大切さや、責任の重さといったものを感じています。

数学の学習を苦手としている生徒は、他の教科と比べても格段に多く、私自身、どうやったらそのような生徒を減らすことができるのだろうかと自問自答する日々です。苦手を得意にする（させる）ことや、数学の学力を向上させるきっかけは、ほんの些細なことかもしれませんが、私にはなかなか難しいのが現状です。

私の今の目標は、誰よりも分かりやすい授業をすることです。大学時代、数学教育を担当していただいた先生が学生である私に向かって毎日「教科書の通り教えなさい。」「定義・定理を正確に理解し、そこから発展させられることはないかを常に考えなさい。」と言っておられました。教員になって10年目となり、その言葉の意味が少しずつ分かってきたように思います。また、その言葉が今の私の数学に対する考え方や教材観に大きく影響しています。授業では、数学的現象を正確かつ明瞭に伝えることや、教材開発に誠実に向き合うこと、そして何よりもどうやったら生徒の学力を上げることができるか自問自答しながら日々の授業を大切にし、頑張っていきたいです。



## 「私が教師になろうと考えた理由」

朝日中学校 岩崎 將展

私が教師になろうと思った理由は主に3つある。

一つ目は、中学生の時の恩師の影響である。私は中学生時代、生徒会活動などに積極的に参加していた。しかし、体育祭等を運営することは難しく、全体に指示することがうまくいかず悩むことが多くあった。その時に生徒会担当の先生が優しく、時には厳しくアドバイスをしてくださり、行事が成功したことが今でも思い出として残っている。私も恩師のようにになりたいと思い、教師を志望した。



二つ目は、「社会」の素晴らしさを生徒に伝えたいと思ったからである。中学生までは「社会」は苦手な教科であった。しかし、高校生になり歴史を深く追究するようになったときに、人は過去の歴史を学び、それを生かし今を生きていることを知ることができた。生徒にも歴史を勉強することで未来に生かせるようになって欲しいと思い、「社会」の教師を志望した。

三つ目は、教師は生徒と共に学ぶことができることである。私は教師として勉強を教えるのだが、生徒から学ぶことが多くある。生徒は一人一人個性がある。学習など、指導するに当たり、同じ教え方で接するのではなく、個性に応じて指導する必要性を日々実感している。生徒に日々考えながら接することで、生徒のことを少しでも知ることができ、生徒が勉強しようという方向に進んでくれたときに喜びを感じることができる。このように共に学べるというのは他の職業にはない魅力である。

このように、教師には生徒の成長に関わることができるという喜びがある。初心を忘れず、中学校の恩師から学んだことを実践できる教師になりたいと考えている。

## 「朝日中学校で過ごした半年間」

朝日中学校 鍛冶 沢子

今年の3月に大学を卒業し、中学校で働き始めてから約半年が経ちました。毎日が知らないことの連続で、あっという間の半年間だったように思います。

この半年間を振り返ってまず一番に思うことは、「朝日中学校に来ることができてよかった。」ということです。朝日中学校に赴任することが決まった3月末、私は不安でいっぱいでした。しかし、実際に生徒達と触れ合って感じたことは、朝日中学校の生徒はすばらしいということでした。廊下や授業の時の元気な挨拶の声、勉強に取り組む熱心な姿、一つ一つが自分の想像を超え、こんなすばらしい生徒達と一年を過ごすことができると思うととても嬉しかったです。



これからの半年間は、まだまだ初めての経験が多く、戸惑うこともあると思います。しかし、毎日が勉強だと思って一日一日を大切に過ごしていきたいです。特に授業面で、学習規律をしっかりすること、楽しむところは全力で楽しむことが目標です。私は音楽を教えますが、この半年間で、楽しみながらも学習規律を守りながら活動する授業づくりの難しさを強く感じました。授業中の学習規律を守ることと、音楽を楽しむことのバランスをうまく保ちながら授業展開していくことを常に意識していこうと思っています。

このすばらしい朝日中学校で1年目の経験ができることに感謝して、いろんなことに挑戦し、成長できる1年にしたいです



## 「元気の源」

さみさと小学校 勝田 優太

朝日町での勤務がスタートし、早いもので半年が経ちました。年度当初、自分の生まれ育った土地で、そして教育実習でお世話になった学校で働けることが決まり、心を躍らせながらさみさと小学校へ向かったことを今も鮮明に思い出すことができます。

私は現在3年生の担任をしています。学級の子供たちは、歌うこと、体を動かすこと、食べることが大好きで、様々なことに興味津々です。私は小学生の頃、毎日を笑顔で楽しそうに過ごす担任の先生に憧れて教員を志しました。しかし、実際に教壇に立つと、日々の教材研究や子供たちの発達段階に合わせた個別指導、学校行事、校務分掌等、職務に追われる毎日です。子供たちに忙しい素振りを一切見せず、同じ目線に立ち、いつも笑顔で接することの難しさを実感しました。

そんな中、子供たちはどんな時も元気いっぱい私に話しかけてくれます。「漢字テストで満点取れたよ!」「今日の勉強、楽しかった!」「一緒に遊ぼうよ。」エネルギーを与える立場の自分が毎日子供たちからエネルギーをもらっていることに気付きました。そんな子供たちと過ごす時間はかけがえのないもので、充実した毎日を送ることができています。

しかし、このまま子供たちに負けるわけにはいきません。今後は彼ら以上にエネルギーに、そして子供たちの元気の源となれるよう努めます。また、子供たち全員が長所を伸ばし、短所をカバーし合える素敵な学級づくりを目指し、私自身も子供たちのきらりと光る瞬間を見逃さず、成長を大いに褒めることができる先生を目指していきたいと思っています。



## 学びつづける教師であるために

～夏休みの研修の概要・感想

### 情報教育研修会（タブレットの効果的な活用） 参加者34名

日時 8月1日（月） 場所 朝日中学校コンピュータ室

講師 朝日町情報教育研究調査員7名

内容 「小学校低学年でも30分でできるプレゼン」「Air Dropを使おう」  
「その場でつくれる Keynote ～パッと行って、パッと撮って、パッと転送～」

○初めて、ロイロノート体験した。もっと時間があつたらよかった。自分自身が使いこなして、授業に取り入れていきたい。低学年にも使えて魅力的である。

○子供たちといっしょに使う場面を想定した研修だったので、とても参考になった。実践での使い方をカードごとに体験したので、あっという間に研修の時間が終わった。

○ロイロノートや Keynote を実際に使ったことで、活用に向けて意欲をもつことができた。生活科や総合でこれまでより簡単にプレゼンテーションを作成できるよう思う。

○ AirDrop を使って送信したり、文字のフォントを大きくしたり、使ったことの無い機能を使えたりと、授業で、子供が使うことも含めて、いろいろな場面で iPad を活用したい。



## 第1回朝日町学校教育運営研修会

参加者27名

日時 8月3日(水) 場所 音楽夢工房(実家をリノベーションした音楽施設)

講師 元富山中部高校校長 加藤 敏久 先生

演題 「音を探究する」



- 素敵な音響システムが心に残った。こだわりを持って創作や趣味に取り組むことのおもしろさや大切さが、加藤先生のお話から伺え、癒された。
- 趣味を追究できるなんてすごい。素敵だなと思う。自分のやりたいことや小さいころからの夢を追い続けているのを見習いたい。まずは夢を持つ、やりたいことを持つことが大切だと思った。
- 夢・趣味を追究し続ける姿勢について、子供たちにもぜひ話していただきたいと思った。
- 先生の朗らかな表情と音を探究する情熱に引き込まれた。教師は、子供たちの前で、こうあるべきだと思った。
- 物事の本質を考え、本物を追究する姿勢、教育の自由度、体験の大切さなどを示唆していただくとともに素晴らしい音をたくさん聴くことができてよかった。
- 日頃なじみのない音の奥義に驚かされた。追究することの大切さを学ぶことができた。

## 朝日町とやま型学力向上プログラム研修会

参加者46名

日時 8月5日(金) 場所 朝日町図書館研修室

講師 芦屋市教育委員会主幹 俵原 正仁 先生

演題 「笑顔の教師が笑顔の子どもを育てます～楽しい学級づくり&授業づくりのツボ」

- 授業に遅れがちな子を待つ時間にも楽しくゲームをして笑顔で過ごすなど、アイデアいっぱいの講演だった。
- 教室の雰囲気がどんどん明るく、意欲的になるワークショップが、新鮮で楽しかった。ぜひやってみたい。
- 楽しかった。こんな気分になる授業をしたい。
- リズムに乗って地名を当てるクイズは、授業で使える。「さかなやのおっちゃん」の音読のバリエーションを授業で生かしていきたい。
- ちょっとした工夫や柏手の気遣いで、子供が物事に取り組む際のモチベーションを高めることを学んだ。授業は子供と仲良くなるための時間であること、子供との関わり方として、笑顔で楽しくということがよく分かった。



- 数字のカードのワークショップが参考になった。人によって、言葉から受けるイメージが違うところがおもしろいと思った。
- 笑顔の教師が笑顔の子供を育てる。また、できるだけ叱るときを減らす。伸びたか伸びていないかで子供を見る。普通の子を意識し、ほめるようにする。給食の時間に全員と話をしたか確認し、一日に全員と話をするようにする。授業は子供と仲良くなる時間であるなど、たくさんの素晴らしいことを学んだ。

## 授業力アップ研修会

参加者 26名

日時 8月4日(木) 場所 あさひ野小学校音楽室

講師 あさひ野小学校教諭 横山 亜希子 先生

研修名 クラス会議を活かした学級経営

- クラス会議という新しい手法で、クラスの人間関係づくりを行うことを学んだ。子供たちが、ルールや見方・考え方のちがひ、協調性等を自然と身に付け、それが効率のよい学習、温かい学級づくりにつながっていくことが分かった。
- ハッピー、ナイス、サンキューを行うことによって、よいところを短時間に見つけられるようになると思った。見つける視点や考える視点が育てば、より広い考え方ができる子供が育つのではないかと思った。
- 掲示物、クラス会議の進行の仕方、児童の発言に対しての声かけなど、具体例を示していただいた。ぜひ、2学期から活用したい。
- 実際にクラス会議を体験することで理解することができた。9月からすぐに取り入れられる内容なので、やってみたい。身近な先輩から教えてもらったので、すんなり頭に入った。
- 今日やったクラス会議の内容や掲示物、プログラム等のささやかだけど、手の込んだ取組が実を結ぶのだと思った。5年生になったつもりで参加できて楽しめた。子供たちにもこのような楽しく充実した気持ちを味わわせてあげたい。



## 授業力アップ研修会〈理科実験〉

参加者 27名

日時 8月9日(火) 場所 さみさと小学校理科室

講師 県総合教育センター科学情報部 岩城 圭一・能登 一昌・西谷 裕子先生

実験1 「試験管に雪を降らせよう」

実験2 「ぽんぽん蒸気船」



- 実験だけで終わるのではなく、楽しく遊べるところが、理科を好きになるポイントではないかと思う。理科を好きになることが、学力向上にむけての第一歩と思うので、これからも教材研究に努め、楽しい理科を目指すとともに基礎学力の定着を図っていきたい。
- 結晶ができる仕組みや蒸気船が動く理由がよく分かった。子供たちが楽しんで実験に取り組み、その原理を考える理科の学習を行いたい。
- 身近な道具で、楽しい実験道具を作ることができた。授業に生かしたい。
- 水の状態変化を楽しく実験することで、学ぶことができた。子供たちの発達段階に合わせて実験を取り入れていきたい。



## 第2回朝日町学校教育運営研修会

参加者 15名

日時 8月17日(水)

場所 朝日町図書館研修室

講師 大高建設(株)代表取締役社長 大橋 聡司 先生

演題 「企業が学校に臨むこと」

- 「働く」ということは、社会に貢献し、そのことを喜び、自己の価値を高めるというお話が印象に残った。自分はどのように働いていきたいのか、どのような子供たちを育てていきたいのかをじっくり考えたい。
- 学校教育も企業教育も目指す目標・理念は同じであることを学ぶことができた。私たち教員も感謝の気持ちをもって仕事をしたいと思った。
- 周りから感謝される子供を育てるために努めたい。
- 社会の中の学校教育の立ち位置を再認識した。
- 企業及び教育の目的は社会に貢献することと、人生を価値あるもの、豊かにするものという話が印象的だった。



## 郷土を学ぶ研修会(現地学習会)

参加者 18名

日時 8月18日(木)

場所 宮崎城跡・北陸宮御所跡・諏訪神社・館弾正屋敷跡

講師 木曾義仲・巴と宮崎太郎あさひ塾 沢木 昇 先生 郷土教育開発研究調査員5名

- 澤木先生の確かな検証に基づくお話は大変分かりやすく、地形や広さ、山々の連なり、樹木の生い茂り方等、あらゆることが歴史を考察する上で重要な手掛かりになることを学ばせていただいた。昨年度との関連もあり、朝日町の歴史や地名についていっそう深く知る有意義な学習会となった。
- 城山は攻めにくいように人の手加えられているということに驚いた。
- 朝日町の歴史について、当時の資料や地名、住民の名字等を基に調べ、明らかにしていくということがとても面白く、興味が湧いた。
- 遥か遠いその時代を生きた人々の思いに触れることができ、知恵や勇気に感動した。朝日町の歴史をもっと知りたいと思った。
- 昔の城を実際に見ることで歴史を身近なものとして感じる事ができた。今まで何回も城山に来たが、空堀や崖を視点をもって見学したのは初めてだったので、以前より理解が深まった。澤木先生の明快で、思いがこもった話ぶりには感動した。



## 今秋の必読・必見～「忙中閑あり」

秋はいろいろな行事があり、とても忙しい季節です。目の前のことに忙殺される毎日だとは思いますが、忙しい時だからこそ時間をみつけて、読書や映画で、心の栄養を蓄えましょう。「実りの秋」となることを願っています。

### 小・中学校 DVD 全日本合唱連盟 後援 くちびるに歌を

製作 「くちびるに歌を」製作委員会



中田永一の同名小説を映画化したもの。親友の育休代員で美しすぎる音楽教師柏木ユリが、末期がんの母親を捨て出奔した父親をもつナズナと、自閉症の兄の面倒を見るために生まれてきたサトルの境遇を知り、大人に成長していく物語。最後の「マイバード」の合唱は感動的。

※野坂昭如の同名小説をアニメ化した「火垂るの墓」(スタジオジブリ製作)も必見。

### 小学校 人とつながって生きる子どもを育てる 赤坂版「クラス会議」完全マニュアル

著者 赤坂 真二 発行 ほんの森出版



学級で起こる様々な問題を自分たちで議題を出し解決策を話し合い、見いだすための「クラス会議」の進め方が分かる本。学級づくりや学級内の人間関係をよりよいものにするために効果的である。

※『赤坂版「クラス会議」バージョンアップガイド』にはクラス会議の「考え方」がまとめられているので、併せて読むとよい。

### 小・中学校 総合教育技術11月号増刊 実践学校カウンセリング2016

編著者 東京学芸大学教授 小林 正幸



前回『教育相談のワザ13』という本を紹介したが、この増刊号にも「学校カウンセリングの実践に必要な10の技法」が載っている。併せて読めばよい。

なかでも「図解・図説学校カウンセリングの実践研究48事例」はすぐに使える。「犯人が特定できないいたずら」が、あったとき、犯人が潜んでいる集団の全体に注意を喚起するが、加害者の琴線に触れる言葉を発せられるかどうかポイントだと言っている。

### 小・中学校 新訂第5版 やさしい教育法規の読み方

著者 菱村 幸彦 発行 教育開発研究所



教育法規の読み方のコツをまとめた本。本書を読めば、一つの事柄にいろんな角度から法令が適用されていることが分かる。だからといって「法があって、教育がある」というわけではない。目の前に事件が起きているのに、法を盾にして指導を放棄してはいけない。むしろ日々の指導をためらわないためにも、また誤指導を受けないためにも教育法規を心得た上で日々の指導に当たるべきであろう。

**教育雑誌から**『総合教育技術 11月号』は「特別の教科道徳の評価」を所見記述例付で特集している。『月刊生徒指導 11月号』は「警察連携と生徒指導」を特集している。従来の情緒的な対応では限界が生じていることを指摘し、指導の限界を見極め、連携をためらわないことが重要だとしている。『児童心理 11月号』は、「自分の小さなよさに気づく」を特集している。居丈高でもなく、かといって「トモダチ」でもなく、子供達の「よさ」を発揮させる場を作るのが担任の務めと言っている。至言である。

### 編集後記

いろいろな分野で成功した人は、キーパーソンとして必ずと言っていいほど、学生時代の恩師の存在を挙げています。困った時に手をさしのべられ、人生の岐路に立った時には明快な助言を与えてもらったと言います。教育は感化することとも言われます。忙しい時だからこそ、読書をし、「人」と会い、心と頭の栄養を蓄え、目の前にいる子供たちの成功の礎となりたいものです。

### 発行:朝日町教育センター

〒939-0743

富山県下新川郡朝日町道下1053-1

TEL (0765)83-0279

FAX (0765)83-0279

E-mail asahi-ec@tym.ed.jp

Webサイト <http://www.asahi-c.tym.ed.jp/>